

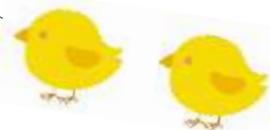
## 令和7年度 「はじめてのエコライフ教室」 実施報告



はじめてのエコライフ教室を幼稚園、保育所、こども園などで実施しました。

地球温暖化防止活動推進員が訪問し、幼児や保護者の皆さんと一緒に、しかけ絵本を見たり、エコ工作やごみ分別ゲームなどを楽しみながら、エコライフを学びました。

その後、幼児の皆さんが自ら3つの取組みを選び、家庭で家族と一緒に1週間、エコライフに取り組みました。参加した皆さんは、とりくみシートに貼っていくよくできたシールを楽しみに頑張り、多くの家庭でエコライフを習慣にしてください。

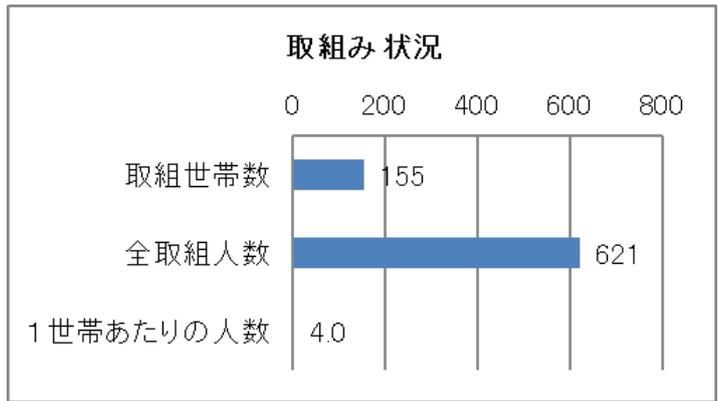
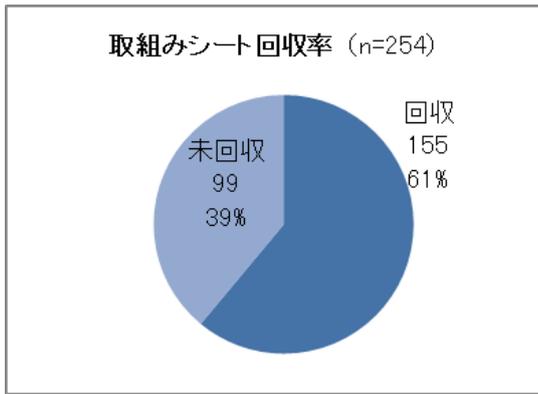


### ●参加者、取り組んだ人数

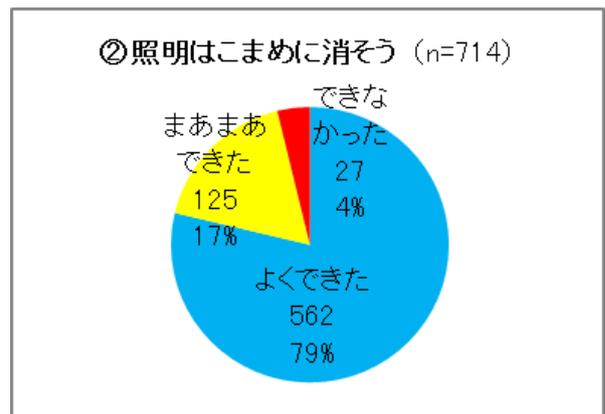
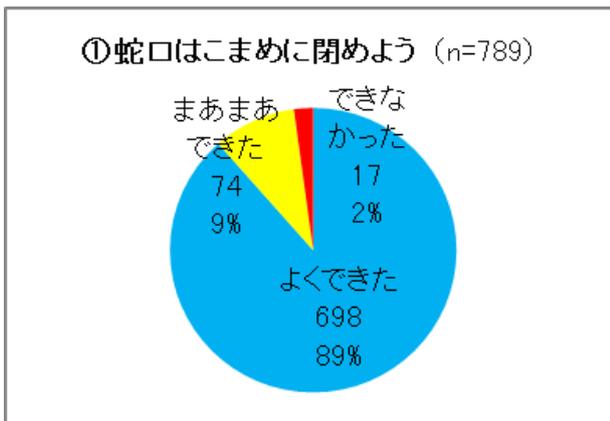
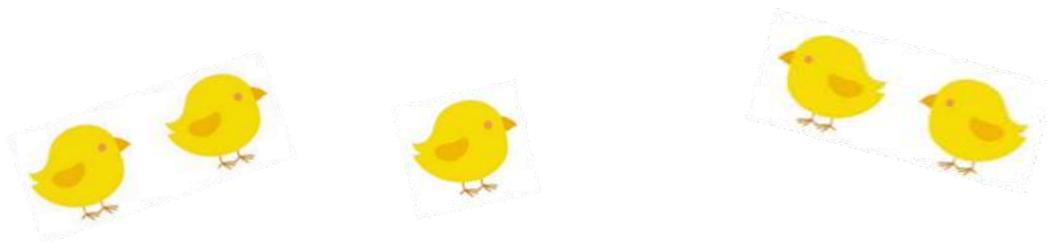
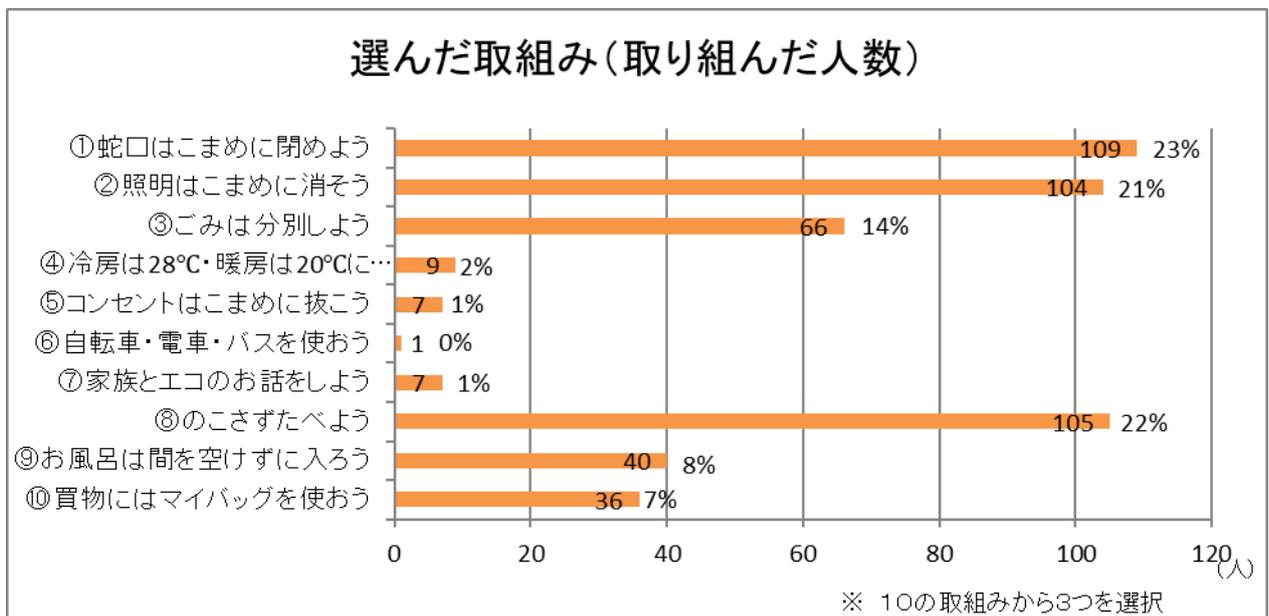
実施園数	参加幼児数	参加保護者数	取組世帯数	全取組人数 (幼児及びその家族)
8	254人	22人	155	621人

### 令和7年度 はじめてのエコライフ教室 実施園一覧

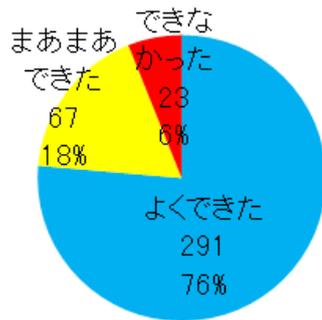
申込順	市町名	幼稚園・保育所名	実施日	年齢	幼児実績	保護者	全取組人数
1	高岡市	定塚保育園	7月18日(金)	5	26	0	92
2	黒部市	荻生保育所	8月5日(火)	5.4	37	0	36
3	黒部市	黒部愛児保育園	9月2日(火)	5.4	41	0	105
4	富山市	五番町幼稚園	9月19日(金)	4	22	22	91
5	富山市	かみいいの認定こども園	10月21日(火)	5	22	0	45
6	滑川市	やなぎはら保育園	12月3日(水)	5.4	31	0	130
7	富山市	晴雲幼稚園	12月10日(水)	5	28	0	51
8	富山市	くまのこども園	12月16日(火)	5.4	47	0	71
				計	254	22	621



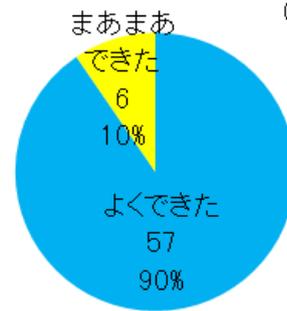
## 1. 取組み結果



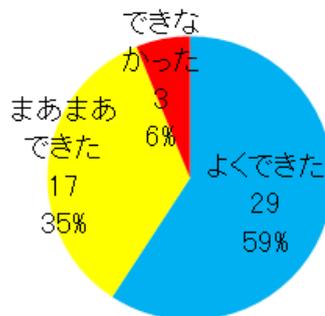
③ごみは分別しよう (n=381)



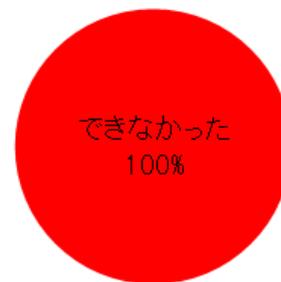
④冷房は28°C・暖房は20°Cにしよう (n=63)



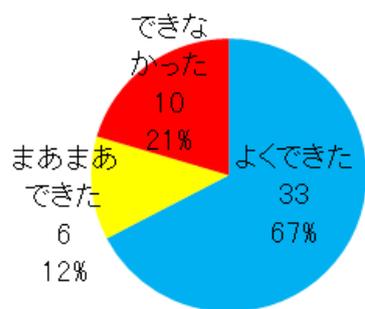
⑤コンセントはこまめに抜こう (n=49)



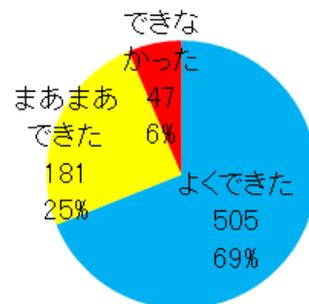
⑥自転車・電車・バスを使おう (n=7)



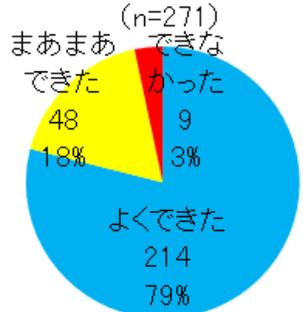
⑦家族とエコのお話をしよう (n=49)



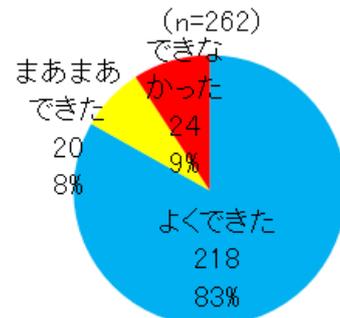
⑧のこさずたべよう (n=733)



⑨お風呂は間をあげずに入ろう (n=271)

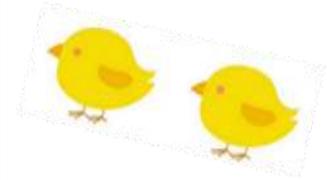
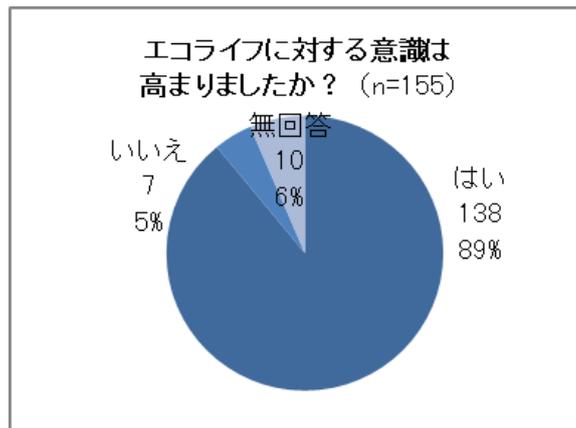


⑩買物にはマイバッグを使おう (n=262)



## 2. 保護者アンケート

### ①「はじめてのエコライフ教室」によって、ご家族のエコライフに対する意識は高まりましたか？



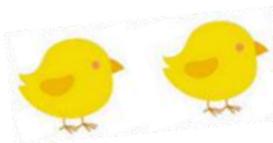
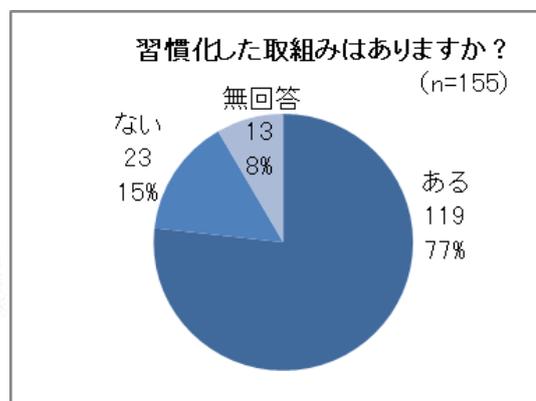
#### <「はい」の理由> (抜粋)

- ・子どもが意識的に取り組んでいることに誘発され大人も意識するようになった。
- ・目標を正確にすることで何をすべきか具体的に考えることができた。
- ・子どもが「よくできたシール」を貼ろうと家族に呼びかけていた。
- ・既に習慣づいているから。
- ・ごみが出る度に「何ごみかな？」と確認しながら捨てるようになった。家族で声をかけ合っている。
- ・リサイクルした後にどうなるのかわかって意識を高めて取り組めた。
- ・とりくみシートがあったことで毎日習慣づいた。
- ・子どもの手本となるよう意識した。
- ・水や食べ物を大切にするようになった。
- ・子どもがごみのマークにすごく関心を持ったことで大人も今まで以上に目を向けるようになりました。
- ・子どもがやる気満々で楽しんでおり、エコライフ教室のおかげで親子で楽しく学べ意識が高まった。

#### <「いいえ」の理由> (抜粋)

- ・以前から節水やごみの減量化について家族全体で意識して生活している。

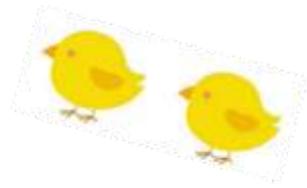
### ② 1週間実践した取組みの中で、習慣化した取組みはありますか？



#### <取組みの内容> (抜粋)

- ・子どもの分別意識ができ、分別マークが目にとまるようになった。
- ・お風呂にみんなで入ることでエコライフと家族のコミュニケーションの場になった。
- ・スーパーへ子どもと一緒にペットボトルのリサイクルに行くこと。
- ・ペットボトルのラベル剥がしを子どもに任せた。
- ・電気をつけたら消し忘れがないか確認するくせが子どもにもついた。

- ・残さず食べてからおかわりする。
- ・子ども自身で分別できるようになった。



### ③意見・感想（抜粋）

- ・子どもが自分にできることってなんだろう？と考えるきっかけになったと思います。家族で取り組むことでより身近にエコについて意識できました。
- ・小さいうちから自分にできるエコな生活の取り組み方を知るとはとても良い機会だと思う。
- ・初めは4歳児には難しいのでは？と思ったが楽しそうにやっている姿を見て自分(親)ももっとエコライフをしないといけないなと感じた。
- ・すぐに始められる取組みが多く、これからも生活の中で実践していきたい。
- ・普段していることがなぜ大切なのか、知るきっかけになってよかったと思う。
- ・エコライフは節約にもつながり、ごみの分別が子どもにもわかりやすい説明でよかった。
- ・缶に磁石がくっつくか家でも試していました。
- ・子ども自ら「これはプラごみだ！」と気づいてごみを分別するようになり良かった。
- ・幼児期からエコに関する取組みに参加することは大切だと思った。子ども達が将来当たり前のこととしてできるようになるといいなと思った。
- ・各家庭で生活スタイルは違うのでできる範囲で取り組むことが長続きするコツだと思った。
- ・今回取り組んでいない内容も今後ぜひ取り組みたいと思った。
- ・紙の保管や配布、終わった後の提出など煩雑なのでオンラインでの取り組みを検討してほしい。紙の削減がエコにつながるのでは...と思う。

## 3. 実施園及び地球温暖化防止活動推進員から

### ① 各園の先生の感想

- ・園児たちが家庭から持ってきたごみを実際に分けて袋に入れる経験が良かった。捨てるものを工夫して玩具にできることや電気を作るのは大変だという事を触れながら知ることができた。
- ・保育所の年中児、年長児には少し難しい内容、テーマだったが、子ども達は真剣に聞いていた。
- ・難しいことを簡単な言葉でわかりやすく説明してくださり、保育者も勉強になった。
- ・エコライフ教室後分別ごみや水、電気について意識が変わったように思います。家ではもちろん、幼稚園でも声をかけ合っている姿が見られるようになりました。
- ・自分で発電させて遊ぶことは楽しかったようだが、腕が疲れてしまい、電気を作ることの大変さを感じていた。
- ・エコライフ教室のあと、クラスで話し合いをした。その中で
  - ア ご飯は残さず食べること。
  - イ 使わない部屋の電気は消す。
  - ウ ごみを分別する。 の3つを約束して取り組んでいる。
- ・日頃から廃材を使って自由制作を楽しんでいるという事もあり、関心を持って参加する姿が見られた。園だけでなくとりくみシートで家庭でも取り組むことで子どもの意識が高まったと思う。
- ・普段の家庭や園生活の中での話なため、子ども達は真剣に耳を傾けお家でも取り組んでいるという声が聞けて良かった。また、給食時に残すのはもったいないからがんばって食べる！！や、苦手なので減らしてほしいと自ら発言する姿が見られて良かった。
- ・反省点では、エコ工作で遊ぶ時間をもう少し取れたらなお良かったのかなと思った。
- ・ビンや紙が生まれ変わる様子を動画などで観られたらより分かりやすくて良かったと思う。(洗ってまた使うと思った園児もいたのではないかと思う)

## ② 地球温暖化防止活動推進員(見学者含)の感想(抜粋)

- ・子どもたちの興味を引いて導入を工夫し、「エコ活」など5歳子ども達にもわかるようにかみ砕いて話すよう心がけた。今日の体験から子どもなりにエコ活をやってみたいと思い、家庭を巻き込みエコ活への関心を深めるきっかけになればよいと思った。
- ・これからも資源を大切に、電気や水、物や食べ物など「もったいない」という気持ちを持って「エコライフ」を実践してほしい。
- ・子ども達はSDGsについてもよく知っていて驚いた。エコ工作はお絵かきに夢中になる子どももいて楽しんでくれていた。実際に工作したおもちゃで遊ぶのも夢中で楽しんでくれていた。一時間半しっかり椅子に座ってられる子ども達はこの年齢では珍しいのではと思った。
- ・リサイクル遊び道具では、時間が足りないくらい一生懸命に遊んでくれました。
- ・「もったいない」をキーワードとした問いかけにおいても、どちらがもったいないかを判断することができるなど、エコに関するリテラシーの高さを感じられた。これも何年にもわたる継続的な活動の成果であると思うので今後も継続していくことがとても大切であると感じた。
- ・「ごみの分別ゲーム」では、各自が持参したごみはどこに分別すればよいかを尋ねるなど、意欲的に参加してくれ、また自分なりの判断もしっかりとできており、家庭や園などで日ごろからの意識づけがなされていることの驚きとその頼もしさに嬉しさを感じた。
- ・博士役として、エコに関する説明を担当したが、伝え方の工夫をもっとすべきであった。イラストなど具体的なイメージをさせたり、自分自身の日常を連想させたり、もっと問いかけを活用し、自分事として考えられるような仕掛けができればよかったのではないかと思った。次回以降、同様の機会があれば、その点を含めて考えたい。

### 各園での様子



7.18 定塚保育園



9.2 黒部愛児保育園



9.19 五番町幼稚園



10.21 かみいいの認定こども園



12.3 やなぎはら保育園



12.10 晴雲幼稚園



12.16 くまのこども園



みなさんの幼稚園、保育所、こども園でも  
「はじめてのエコライフ教室」を実施しませんか？

詳しくは(公財)とやま環境財団（電話 076-431-4607）までお問い合わせください。